

黒部市地域公共交通計画（素案）へのパブリックコメントに対する対応

番号	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する対応
1	<p>第1章 計画策定の背景と目的 1-2 計画の位置付けと上位計画、関連計画 (3、5ページ)</p> <p>第2章 黒部市と地域公共交通の現状 2-3 黒部市の人口 (13ページ) 2-4 黒部市の公共交通 (14ページ)</p>	<p>運転免許返納措置の推進に伴い、高齢者の通院手段としての公共交通は益々重要視される。 現在、生地地区から石田地区への移動は、タクシーを利用するか、路線バスと富山地方鉄道を乗り継ぐ必要がある。 地域公共交通計画では、生地-三日市、石田-三日市のルートを示されているが、高齢者の通院の面から、生地-石田を結ぶバスルートを考慮してもらえないか。 生地地区と石田地区の住民にとって、生地～魚の駅～道の駅～石田を結ぶバスルートは、医療面のほかに買い物や交流面で需要は見込めないか。 生地-石田間のバスルートが試験的にでも実現できれば、三日市をハブとする生地在住高齢者の不便を改善できるのではないかと考える。 新しい見地に立った模索をお願いする。</p>	<p>路線バス等のルートの見直しについては、「路線バス・コミュニティ交通の運行及び利便性向上」（事業①-3）で定期的な評価を行いながらダイヤやルートの見直しを行うこととしています。 今回のご意見については、今後、ダイヤやルートの見直しを進めていく際の参考とさせていただきます。</p>
2	<p>第1章 計画策定の背景と目的 1-2 計画の位置付けと上位計画、関連計画 (3ページ)</p>	<p>あいの風とやま鉄道と電鉄黒部駅間の連絡網をきちんとしないと一連の交通体系としてはつながらないのではないかと。</p>	<p>本計画では、「路線バス・コミュニティ交通が鉄道を補完する公共交通ネットワーク」の形成を目指すこととしており、中心市街地における主要な鉄道駅であるあいの風とやま鉄道黒部駅と富山地方鉄道電鉄黒部駅間の移動手段の確保は重要であると考えています。 現在、中心市街地に乗り入れる路線バスは、両駅を結ぶルートを運行しており、引き続きこの間のバス路線の維持・充実に努めていきたいと考えています。</p>
3	<p>第5章 地域公共交通計画 5-1 計画の基本理念と基本方針 (70ページ)</p>	<p>70ページでは電鉄黒部駅を中心とした交通網になっているが、中心駅となる駅にトイレが完備されることを強く望む。</p>	<p>電鉄黒部駅には駅舎に隣接したトイレがあり、駅利用者のニーズに対応できているものと考えています。 また、駅舎やトイレ等の駅施設については、「駅舎及び付帯施設の修繕・更新」（事業④-3）により、必要に応じた改修・整備に努めていきたいと考えています。</p>

黒部市地域公共交通計画（素案）へのパブリックコメントに対する対応

番号	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する対応
4	第5章 地域公共交通計画 5-4 実施する事業及び事業スケジュール 「黒部駅における施設整備の推進」 (事業②-1) (86ページ)	あいの風黒部駅のバリアフリー化については、今後の人口の減少も十分考えられ、十億単位で費用もかかると思うので慎重に検討すべき課題と考える（費用対効果の検証を実施してほしい。）。	あいの風とやま鉄道黒部駅については、バリアフリー化や駅西側出口等の整備により、駅利用者の利便性向上につながり、鉄道の維持・活性化が図られるものと考えています。事業を進める上では、費用対効果の検証も行いながら、整備内容の検討等を進めていきたいと考えています。
5	第5章 地域公共交通計画 5-4 実施する事業及び事業スケジュール 「黒部宇奈月温泉駅周辺施設等のあり方の検討」 (事業②-5) (88ページ)	新川地域の中心駅としての役割を十分考慮した黒部宇奈月温泉駅周辺の開発に努力してほしい（ロータリーを一般開放し、タクシーは西側を利用）。	黒部宇奈月温泉駅周辺については、駅開業から10年目を迎える現状において、金沢-敦賀駅間の開業や黒部宇奈月キャニオンルート的一般開放も予定されている中で、駅利用者等の利便性向上を図るため、駅を拠点とした自転車などの周遊機能や、ロータリーの円滑かつ効率的な利用が必要であると認識しています。 こうした駅利用者等の利便性向上を図る取組については、地元住民の皆様のご意見を聴くとともに、黒部市未来会議等も開催し、広く意見をいただきながら、検討していきたいと考えています。
6	(全般に関するご意見)	石田、田家、東布施地区等は、直接、黒部宇奈月温泉駅に来る手段がないので、一考すべきと思う。	黒部宇奈月温泉駅へのアクセス交通としては、鉄道では富山地方鉄道が、路線バスでは新幹線市街地線及び新幹線生地線が運行されています。 市内の全ての地区から直通した公共交通を整備することは難しいことから、複数の公共交通を乗り継ぐことでアクセスできる公共交通ネットワークの形成を目指していきたいと考えています。
7	(全般に関するご意見)	一見すると集落が非常に少ないのが現状と思う。オンデマンド対応と大型・中型のバスから小型に変更し、経費の節減を図ってほしい。	公共交通ネットワークを維持していくには、運行の効率化・収支の改善が求められます。 「路線バス・コミュニティ交通の運行及び利便性向上」(事業①-3)及び「実情を踏まえた運行形態の見直しの検討」(事業①-5)を進めていく中で、利用状況に応じて、デマンド(予約式)運行への移行や車両の見直しについて検討していきたいと考えています。